

第 五 次
柏市芸術文化振興計画

令和3年度～令和7年度

(案)

柏市教育委員会

目 次

第1章 計画の策定にあたって	
1 芸術文化の意義と計画の趣旨	2
2 計画の位置付け	3
3 計画の期間	4
4 計画の基本的な考え方	5
第2章 文化行政を取り巻く動向	
1 国及び県の動向	6
2 第四次柏市芸術文化振興計画の成果と課題について	6
3 「教育・生涯学習・芸術文化に関するアンケート調査」から見える傾向	8
第3章 芸術文化のさらなる振興の実現に向けて	10
<目指す姿>	10
<施策体系>	10
施策の柱（1）誰もが芸術文化に触れることのできる機会づくり	11
施策の柱（2）芸術文化振興のための環境づくり	11
施策の柱（3）芸術文化活動への支援と連携・協働による文化交流の促進	13
施策の柱（4）柏らしさを活かしたまちづくりの推進	14
参考資料「教育・生涯学習・芸術文化に関するアンケート報告書」より	15
文化振興審議会 審議経過	20
柏市文化振興審議会委員名簿	21

第1章 計画の策定にあたって

1 芸術文化の意義と計画の趣旨

文化は、人々に楽しさや安らぎを与えると同時に、創造性や表現力を育み、気付きを与え、人と人との心をつなげる力を有していることから、豊かで活力あるまちづくりにおいて重要な意義を持っています。本芸術文化振興計画においては、造形芸術（美術系）及び上演芸術（音楽・演劇等）に属する芸術文化を主に扱いますが、その対象は広義の文化に属する芸術文化にとらえ、幅広く取り扱う必要があると考えています。

市では、市民が各々に豊かで文化的な生活を実感でき、自らが住むまちに愛着を持てる環境づくりが求められています。また、次世代を担う子どもたちにとって多様な文化に触れることはその感性を育む上で不可欠であることから、その機会を提供することが大切であり、それが芸術文化への興味関心の裾野を広げることにもつながります。

本計画は、市の総合計画の文化振興部門計画として平成12年度に「柏市芸術文化振興計画」を策定し、その後、5年ごとに見直しを行い、柏市の文化の振興、柏らしさあふれる文化の創出に取り組んでまいりました。

令和元年度に行った芸術文化に関する市民意識調査では、柏市の文化活動が盛んだと回答した市民が3人に1人はいるものの、まだ、実感として感じられていない市民も多いことが分かりました。また、市民の8割が芸術文化関連の鑑賞をしたいという回答がある一方で、文化が盛んでないと思う理由では、その機会があまりないからとの回答が多かったのも現状です。その理由としては、「芸術文化」に対するとらえ方がさまざまで、「芸術文化」は美術館やコンサートホールで鑑賞したりするもの、という認識が強く、文化が身近な日常生活から生まれている、という認識はあまり高いとは言えない、といった事情もあるかもしれません。市民意識調査からは、文化活動にもっと気軽に触れられる機会が望まれているとともに、芸術文化が多様なものであると実感してもらえる環境の必要性もうかがい知ることができます。

本計画においては、これらを踏まえ、吹奏楽など柏の強みを活かした文化事業を今後も継続すると共に、様々な文化活動が市民にとって身近で、生活の中にあるものだということを感じてもらえるよう積極的に取り組んでまいります。この柏の強みと生活の中にある文化を柏らしさとして確立し、これからのまちづくりに活かしていくことが、住んでいる地域への誇りや愛着の醸成につながると考えています。

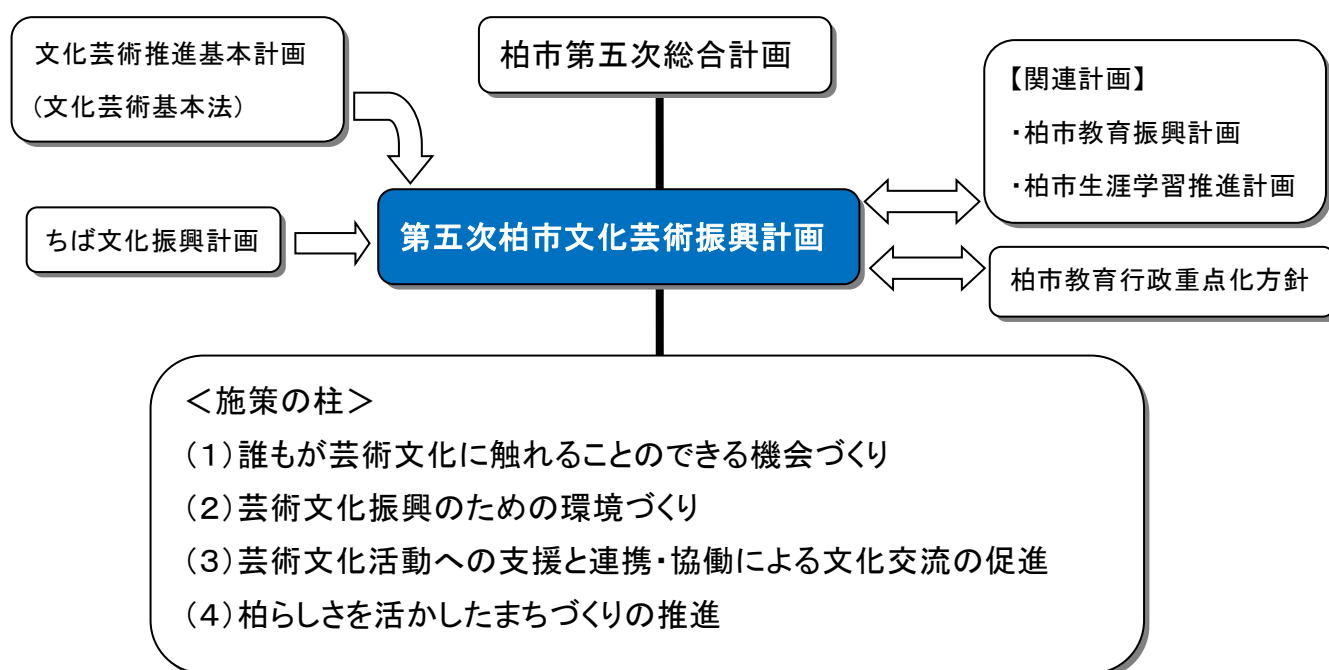
この度、「柏市芸術文化振興計画」が5年に一度の計画の見直しの年を迎えるにあたり、前計画の理念を基本的に継承しつつ、現状の課題などをとらえながら、さらなる柏市文化振興の推進を目指す取組を体系的に整理し、柏市の目指すべき姿に近づけていく施策を掲げました。

今回策定した計画をもとに、柏市は市内芸術文化活動の主役である市民を始め、芸術文化団体、市が連携を図り、文化の意義を踏まえながら、より一層柏の芸術文化を盛り上げ、幅広い世代に広げ、柏の地域づくりの発展につながるよう邁進してまいります。

2 計画の位置付け

柏市芸術文化振興計画は、柏市が定める「柏市第五次総合計画」において、芸術文化に関する部門計画として位置付けられています。

柏市芸術文化振興計画の策定にあたっては、上位計画である柏市第五次総合計画との整合性に留意するとともに、その他の関連計画との連携を図りながら、必要な施策を計画的かつ継続的に運営可能にする方策を体系化します。



☆柏市第五次総合計画における芸術文化の位置付け

平成28年度から平成37年度までの10年間を計画期間とする「柏市第五次総合計画」では、将来都市像として、

「未来へつづく先進住環境都市・柏
～笑顔と元気が輪となり広がる交流拠点～」

を掲げています。

また、本計画の重点目標の一つとして「地域の魅力や特性を活かし、人が集う活力あふれるまち」が位置付けられています。分野別方針においては芸術文化分野は「地域のちから」の分野に位置付けられており、まちへの誇り、愛着、定着を高めるためには芸術文化の果たす役割は大きいととらえています。

☆ 柏市教育行政重点化方針との整合性

教育委員会では「柏市教育行政重点化方針」を毎年掲げこれに基づき各種事業展開をしてきました。この中で、文化に関する記述において「柏市芸術文化振興計画」に沿った施策を展開するとしています。

計画に関する進捗については、毎年行う「教育に関する事務の点検と評価」を通して定期的な確認を行い、継続的に改善に取り組んでいます。

3 計画の期間

本計画の期間は、令和3（2021）年度から令和7（2025）年度までの5年間となります。

H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
柏市第五次総合計画									
第四次柏市芸術文化振興計画					第五次柏市芸術文化振興計画				

4 計画の基本的な考え方

市の文化振興を推進していく上では、市民を始め、市内で芸術文化活動を行う団体、NPO、ボランティア団体等、そして行政などの文化振興の担い手が、それぞれの役割を果たしながら、互いに連携を図っていくことが重要であり、相互がうまく連携しながら事業展開することにより、より大きな効果がもたらされることが期待されます。

(1)市民 —芸術文化活動の主役として—

日々の暮らしの中で、創造、鑑賞、発表など、芸術文化に触れる機会があることは市民に楽しさや安らぎ、気付きを与える重要な意義があります。

市民が、芸術文化を身近に感じ、芸術文化に親しむことが生活に潤いと気付きを与えるということを意識することで、主体的に鑑賞したり活動を行ったりすること、芸術の多様性の認識、更には互いを認め合う豊かで活気あるまちづくりがなされる柏へとつながることが望まれます。

(2)芸術文化団体等 —多様な活動主体による文化振興—

本市で行われている芸術文化活動は、学校関係を含めた芸術文化団体、NPO、ボランティアなど多様な活動主体によって担われています。

これらの活動主体は、個々に独自の芸術文化活動を展開し、さらにさまざまな団体等と連携することにより、本市の文化振興の推進母体として大きな役割を果たしています。

昨今では公共施設への指定管理者制度の導入なども進んでおり、公共施設の管理運営を通して、指定管理者のように民間の強みを活かして文化振興に参画できる仕組みづくりも行われています。

こうしたさまざまな活動は、個別の主体的な芸術文化活動を中心に、互いの交流や市民ニーズとの連携により、本市の文化振興を活性化していくことが期待されます。

(3)市 —行政の果たすべき役割—

市は、市民が芸術文化を身近に感じ、多様な主体と連携しながら親しめる機会を提供できるよう積極的に関わるとともに、柏市独自の文化を内外に発信していく役割を担います。

そのために、市内で開催される文化関連事業について情報を収集し、一人でも多くの市民に分かりやすく発信し、柏市文化振興に対する興味関心を惹くように積極的に活動するとともに、市民や多様な活動主体が行う文化芸術活動の自主性を尊重し、これらの活動が行われやすい環境づくりのため、場や機会の提供、活動への支援、多様な活動主体との連携や協働の促進など、

文化芸術団体と芸術文化活動に対する市民ニーズを支援してまいります。

第2章 文化行政を取り巻く動向

1 国及び県の動向

①文化芸術基本法（平成29年（2017）6月）

文化芸術振興基本法（平成13年（2001）12月）において、地方公共団体の責務として、「国との連携を図りつつ、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、実施する」と規定しています。

平成29年（2017）6月に一部改正され、名称が「文化芸術基本法」とされるとともに、文化芸術の固有の意義と価値を尊重しつつ、文化芸術そのものの振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の関連分野における施策との有機的な連携を図ることなどについて規定されました。

また、地方自治体については、地方の実情に即した文化芸術の推進に関する「地方文化芸術推進基本計画」を定めるよう努めるものとされました。

②千葉県文化芸術振興基本計画

千葉県文化芸術の振興に関する条例における基本理念を踏まえ、文化芸術の施策の総合的な推進を図り、あらゆる人々が文化芸術に親しみ、交流することで創り育む心豊かな県民生活と活力ある地域社会を目指すことが盛り込まれています。

2 第四次柏市芸術文化振興計画の成果と課題について

第四次計画で実施した平成28年度から平成32年度までの5年間の成果と第五次計画に引き継ぐべき今後の課題について整理すると、以下の課題が見えてきます。

柏市第四次計画では、市民の芸術文化活動の支援、次世代を担う人材の育成、柏らしさの創出・演出を重点項目として、5つの施策を展開するための施策体系を掲げ、柏市の芸術文化振興を推進してきました。

特に、柏市第五次総合計画（前期計画）で重点事業と位置付けられていた「音楽の街かしわの創出」（吹奏楽を活かしたまちづくり）の推進には、市立柏高校吹奏楽部を中心に、小中学校の吹奏楽部においても全国大会に出場する学校も多く、全国レベルで活躍する柏市の吹奏楽の存在は重要な要素となっています。また、市の取組事業として、不特定多数の方に自然に吹奏楽に親しんでいただけるイベントや自ら演奏者として音楽を楽しめるためのワークショップの開催等を重点的に行ってきました。

これからは、市立柏高校吹奏楽部の活躍を土台としながらも、学校レベルの活躍のみにとどまらず、市内で活動する吹奏楽団や、吹奏楽イベントを企画する団体との連携を図りながら幅広く認知され、まちの活性化につながるような事業の推進が望まれます。

一方で、吹奏楽以外の音楽や他の芸術文化に対する取組には、さらに検討の余地があると考えています。

これまでの施策の取組をふまえた成果と課題は次のとおりです。

○ 市民文化活動の活性化

公共性の高い市民参加型事業と共催するなどの支援を行い、市民の参画意識を高める事業を展開してきました。また、柏市文化祭等の開催を行う等、個人では普段発表の場がなかなか得られない市民への場の提供を行ってきました。

しかし、市民の芸術活動及び芸術活動に対する意識が多様化していく中で、市民がどのようなことを望んでいるのか、またどのようにしたら市民が主体的に文化活動を活性化していくための支援ができるのか、再度検討していく必要があります。

また、その個々の文化活動が、総合計画の重点目標となっている「教育や子育て支援」「高齢社会でのまちづくり」などにつながるような取組をしていくことも求められています。

○ 柏ゆかりの文化資源の維持・活用

柏市には価値ある所蔵美術作品が多数あり、定期的に展示を行い、市民に広く知っていただけるような取組をしていますが、柏市には価値ある魅力的な文化資源がたくさんあるということを、市民により知っていただき興味を持ってもらえるような広報方法や、見せ方などの工夫について、さらに検討していく必要があります。

○ 人材の育成

次世代を担う人材の育成は不可欠であるため、具体的には、小中学生の吹奏楽部員の体験型ワークショップ「かしわ塾」、や「中学音楽鑑賞教室」の事業を行い、芸術文化に触れる機会の提供を行ってきました。今後は、特に普段芸術文化に触れる機会のない子どもたちに届くような鑑賞機会、体験の機会をより工夫し、子どもたちが興味を持ち、鑑賞や体験を通じて豊かな心を育む機会になるよう工夫していく必要があります。

また、市内ゆかりのアーティスト支援として柏市主催の文化イベントへの出演

を通じて市民への周知を図ってきました。今後はその周知方法や、イベントの開催方法（音楽と美術，文化財施設とのコラボレーション）をより一層工夫をしていく必要があります。

○ 文化振興のための環境づくり

文化活動をすでに行っていたり，文化に興味がある市民だけでなく，芸術文化に触れる機会がない市民が，自然に興味を持てるよう，アウトリーチコンサートや，不特定多数の市民が自然に集まる場所を活用した事業を開催してきました。

今後は文化施設の有効活用とともに，気軽に楽しめる事業の取組をより充実させる必要があります。また，普段自ら足を運ぶことが困難な方にも鑑賞の機会を提供することが求められます。

○ 文化情報の収集と活用

市の情報発信事業として，平成29年度よりスマートフォンアプリ「LINE LIVE」を他市に先駆けて始めました。市内イベントをリアルタイムで配信することを目的に継続してきましたが，SNSの普及・利便性が急速に発達し，芸術文化情報取得の方法として広く普及していく中で，新たな手法の検討が必要になっています。今後は市民のニーズを把握し，より届きやすい発信方法の工夫をするとともに，市民が興味・関心を持てるような発信方法の底上げをしていく必要があります。

また，市民の年代や，市民各々の生活様式により，情報の収集方法もさまざまであることから，情報を得やすい方法を年代等に合わせながら，効果的に発信していくことも求められます。

3 「教育・生涯学習・芸術文化に関するアンケート調査」から見える傾向

柏市文化芸術文化振興計画の見直しにあたって，市民意識調査を実施しました。

対 象	柏市に住民登録をされている18歳以上の市民4,000名（無作為抽出）
方 法 ・ 期 間	郵送による配布・回収 令和元年11月1日（金）から令和元年11月22日（金）まで
有 効 回 答 数	配布数：4,000名 回収数：1,787名（回収率44.7%）※無効票を除く

調 査 内 容	資料（P15）のとおり ※本計画の参考資料として「教育・生涯学習・芸術文化の3分野のアンケート」のうち芸術文化の分野を抜粋
---------	--

調査結果から見える主な傾向

- ・ 3人に1人以上が柏市は芸術文化が盛んだと感じてるものの、3年前のアンケートよりやや割合が上がった程度で、大きな伸びは示していない。
（平成28年度 34.9％，令和元年度 37.7％）
- ・ 柏市の芸術文化活動が盛んだと思う内容については音楽活動が一番高い割合だった。
（62.5％）
- ・ 市民は芸術文化に触れる（鑑賞・活動）機会を望んでいる傾向が強い。
（鑑賞したい：80.2％， 活動したい：51.5％）
但し、市民は・芸術文化を享受する場を求めているものの、自ら創作し発信することや、担い手を支える意識には至っていないということもうかがえる。
- ・ また一方で、芸術文化に触れる（鑑賞・活動）機会を望んでいるものの、文化が盛んでないと思う理由に、文化に触れる機会があまりないからという回答率が高い。
（31.5％）
- ・ 芸術文化関連の情報の取得方法について、年代により違いが顕著。
（10～20代はSNS，40代からはポスターちらし，60代からは新聞・雑誌の割合が高い）。
- ・ 芸術文化に何を求めるかについて、「心の癒し，元気になるもの」という回答が70％以上あり，市民は精神的な拠り所としてとらえている傾向にある。
続いて，自己啓発のため（教養を深める）が38.5％，非日常の体験（特別感）との回答が33％となっており，日常を離れ，特別な時間を楽しみたいという意識が高い様子もみとることができる。
- ・ 次世代（子どもたち）へ芸術文化を伝えていく方法として，学校における公演などの鑑賞という，学校との連携を上げる回答が49％と最も高かった。
次に，市内の文化施設における鑑賞や活動支援が42％，体験教室等の開催が35％と続いている。子どもが芸術文化に興味関心を抱くきっかけとして，学校での鑑賞や体験などが大切であるという認識が高いことがうかがえる。

第3章 芸術文化のさらなる振興の実現に向けて

これまでの事業の取組内容の課題及びアンケート調査から見えた課題を踏まえた結果、第五次柏市芸術文化振興計画において、本市の文化振興の目指すべき姿の実現に向けて、次のとおり施策体系を定めます。

<目指す姿>

- 市民誰もが芸術文化に触れることができ、親しみ、楽しむことができる環境の一層の充実を図る。
- 芸術文化の取組を通じて地域を活性化し、特色ある文化活動が市内外に認知され、市民がまちへの一層の誇りと、愛着をもつ。

<施策体系>

施策の柱	施策の展開
(1) 誰もが芸術文化に触れることのできる機会づくり	①芸術文化が身近にある環境づくり ・身近な場所で芸術文化に親しむ機会の充実 ・芸術文化の情報提供の充実 ・デジタル画像を利用した発信の充実
	②子どもたちが芸術に親しむ機会づくり ・学校等における芸術文化の鑑賞、体験機会の提供
(2) 芸術文化振興のための環境づくり	①市所蔵の美術工芸品の活用 ・作品の紹介・展示、また活用による柏の魅力の発信
	②市内施設の多面的な活用 ・市民芸術文化の発表の場の提供 ・文化財施設等を活用した事業の推進
(3) 芸術文化活動への支援と連携・協働による文化交流の促進	①芸術文化活動を広めるための支援 ・芸術文化活動の担い手の育成 ・芸術文化事業を支える人材の育成
	②文化交流の促進 ・商業施設や民間団体との連携の促進
(4) 柏らしさを活かしたまちづくりの推進	①柏の強みとなっている芸術文化の充実 ・「音楽の街かしわ」の創出
	②日常生活に息づく小さな芸術文化（アート）を通じた地域づくりの推進 ・地域住民と身近な文化団体との連携の推進

施策の柱（１） 誰もが芸術文化に触れることのできる機会づくり

施策① 芸術文化が身近にある環境づくり

芸術文化が敷居の高いものではなく、身近で、気軽に触れることのできるよう、文化会館のようなホールだけでなく、商業施設や街中で自然に音楽が聞こえてきたり、自然に美術品に目を留められるような環境づくりを推進していきます。

また、不特定多数の市民が触れたり参加したりできるような公益性の高い事業については、市が共催する等の支援を行い、市民の文化振興への参画意識を促していきます。

さらに、市民に芸術イベント、文化活動等に興味を持ってもらうために、市でも広く情報を発信してまいります。柏市の所蔵美術品や市主催の音楽イベント等を多くの方に知っていただき、興味をもっていただけるよう、柏市ホームページの分かりやすさ、見やすさの工夫を図っていきます。また、市民の年代や、生活形態などにより、情報取得の方法は異なることも市民意識調査からうかがえることから、年代や生活形態に応じた効果的な情報発信方法についても調査・研究していきます。

市ゆかりの作家等の芸術作品は実物を鑑賞するのが一番良いことではありますが、新しい生活様式の観点もあり、今後は、市所蔵作品やイベントの動画配信等のデジタル画像を配信する方法での情報発信も推進します。

施策② 子どもたちが芸術に親しむ機会づくり

芸術文化は次世代を担う子どもたちの豊かな感性や創造性を育むため、とても大切なものです。幼児や児童生徒の鑑賞機会や体験機会の充実を図ります。

具体的には、中学校在学中に1回は学校でプロオーケストラ演奏を鑑賞できる機会を提供しており、この事業は、鑑賞するのみでなく、演奏に合わせて生徒たちが合唱をしたりなど、一体感を持てるよう工夫されています。

芸術文化に興味がなかったり、触れる機会のない子どもたちにも機会を提供し、興味のきっかけづくりにつながるよう推進します。

施策の柱（２） 芸術文化振興のための環境づくり

施策① 市所蔵の美術工芸品の活用

<市所蔵美術品の紹介・展示・活用>

柏市にはかつて著名な作家が活躍されたこともありましたが、また今も地元で根付いた活動を行う美術作家が多く存在します。それらの作家及び作品を広く市民に

知らせることは、市の文化の振興のみならず、市への愛着の醸成にもつながるため、寄贈作品を含めた、柏市ゆかりの美術作家を紹介する機会を継続的に設けてまいります。

また、市が所蔵している800点にも及ぶ寄贈作品の中でも、故砂川七郎氏から寄贈を受けた人間国宝・芹沢銈介と板画家・棟方志功作品約600点は内外からも高い評価を受けており、引き続き適正に保存するとともに、柏市民ギャラリーや郷土資料展示室での企画展を行い、実物を鑑賞していただく機会を展示するのみならず、広く市内外に知ってもらえるよう効果的な活用に力を注いでまいります。

施策② 市内文化施設の多面的な活用

柏市には以下のとおり、活用できる文化施設があります。

① 柏市民ギャラリー

柏駅南口より徒歩3分の利便性の良い場所にあり、年間を通じて、市民の美術・工芸作品の発表の場として活用されています。

② 柏市民文化会館及びアミューゼ柏

多くの収容人数が確保でき、コンサート等のホールとして活用されています。

③ 沼南近隣センター（ひまわりプラザ）

南東地域の市民文化活動団体の身近な発表の場として活用されています。

④ さわやか県民プラザのホール，県民ギャラリー

県立の施設ですが、北部市域の文化活動の拠点として活用されています。

市では毎年、柏市文化祭を開催し、さまざまなジャンルの文化芸術の鑑賞・発表の場を提供しています。芸術文化団体に属さない個人の参加も可能であり、そのような行事を通して、普段発表の機会がない市民の発表の場ともなっています。

今後も、市民一人一人が芸術活動を自由に楽しんいただくと共にその発表を通じてより多くの市民が文化芸術を鑑賞できる、施設の活用、そのための環境づくりに取り組んでまいります。

また、柏市内には数多くの文化財があります。現在も旧吉田家住宅の主屋を会場に開催する「土間コンサート」を行っていますが、今後も市の財産である文化財施設等との連携を図り、それらの施設等で文化イベントを開催するなど、芸術文化と歴史文化財の両面から柏の魅力に興味を持ってもらえる工夫をしてまいります。

柏市の誇る文化財施設や柏の隠れた名所と芸術イベントのコラボレーション（日本の伝統芸能や新たな芸術文化）をすることで、あらたな興味関心の開拓に相乗効果が期待できると考えています。

施策の柱（3） 芸術文化活動への支援と連携・協働による文化交流の促進

施策① 芸術文化活動を広めるための支援

市の芸術文化活動を幅広く広めていくためには、芸術活動の普及を担っていく人材の育成・支援が欠かせません。引き続き「土間コンサート」や「アウトリーチコンサート」等、若手アーティストが不特定多数の前で公演し、市民が鑑賞できる場の提供を行っていくとともに、さらに文化事業を支える人材の育成として、市内で活動するイベント企画団体との連携やサポート的に関わりを持ちたいと考えている市民が、より参加しやすくなるような環境づくりを推進してまいります。

施策② 市内の多様な団体・施設等との交流の促進

芸術文化は個々で楽しむことでも十分意義はありますが、芸術文化活動をしていない人たちにもその楽しさを広く伝えるためには、日常訪れる商業施設やまちなかにおいてイベントが日常的にあふれ、市内外に広く発信されていることも有効です。また、ジャンルを超えた団体の交流やコラボレーションがイベントの幅を広げることにも繋がり、新たな関心が生まれることも期待できるため、様々な場面で活動する団体や施設とも積極的に連携の促進を図り、ホールや美術館に行かなくても身近に感じることでできる環境づくりを推進します。

（各種イベントの例：「音街かしわ」「柏de吹奏楽ぱ〜り〜(party)♪!」「ららぽーと柏の葉 ミュージックふえすた」「JOBANアートライン」「アートラインかしわ」「かしわワンダーパレード」など）

施策の柱（4） 柏らしさを活かしたまちづくりの推進

施策① 柏の強みとなっている芸術文化の充実

柏市には、もともと市立柏高等学校吹奏楽部の活躍を始めとする音楽活動が知られていた土台があり、全国大会で金賞を受賞するレベルの小中学校吹奏楽部も多く、その流れで大人になっても吹奏楽団に入団し活動する人も増えてきています。市として、上位計画である「柏市第五次総合計画（前期計画）」に「音楽の街かしわ」を重点事業として掲げ、まちなかで自然に音楽が響くような事業の取組を推進した結果、さまざまな機会を通じて音楽と触れ合う機会が増え、柏市が音楽が盛んであるという結果につながったものと考えられます。

しかし、「音楽の街かしわ」の認知度は、まだ高いとは言えないため、さらに広

く認知されるよう推進していく必要があります。

今後、学生の吹奏楽部の活躍のみならず、より一層市内で活動する市民吹奏楽団や吹奏楽イベントの企画をする団体との連携を図り、ます。また、吹奏楽と他のジャンルの連携を促す等、吹奏楽を原動力としながらも音楽全体として市内外にアピールできるよう「音楽の街かしわ」を推進していきます。新たな芸術ジャンルの普及の後押しをしながらも、この柏の強みをさらに活かしていきます。

施策② 日常生活に息づく小さな芸術文化（アート）を通じた地域づくりの推進

多くの市民は、芸術文化に触れるということは、美術館や文化ホールに行って作品に触れたり、コンサートを鑑賞し、知識を得て教養を身につけることであると考えているのではないのでしょうか。

市では「芸術文化」とはこういうものだという既存の価値観にとらわれずに、身近な日常にあるアートに対する気付きを促すことを推進していきます。

生活の中にある自分なりのアートを楽しみ創造する市民が増え、それをきっかけに人々が交流し、さらなる活性化を産むとともに、地域住民や文化活動団体が連携することで、アートを通じた人づくり・地域づくりの輪が広がることは自治体が行う芸術文化活動の意義の一つと考えます。一見ありきたりな生活の中にあるアートを楽しめる市民と環境が市内にあふれ、それが柏らしさや柏の地域づくりにつながるよう努めていきます。

参考資料

教育・生涯学習・芸術文化に関するアンケート報告書より

1. 調査概要

(1) 調査目的

教育振興計画、生涯学習推進計画、芸術文化振興計画の次期計画の策定を来年度末に予定しており、教育振興、生涯学習推進、**芸術文化振興**における市民意向を把握し、計画策定の参考とするために、アンケート調査を実施しました。

(2) 調査期間

令和元年11月1日（金）から令和元年11月22日（金）まで

(3) 調査対象

柏市に住民登録をされている18歳以上の市民4,000名（無作為抽出）

(4) 調査方法

郵送による配布・回収で実施した。

配布数：4,000名

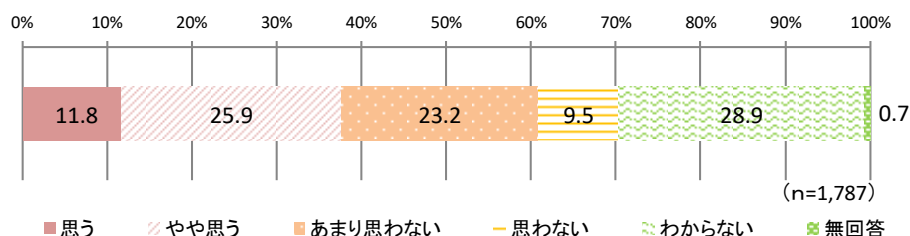
回収数：1,787名（回収率44.7%）※無効票を除く

(5) 調査項目

- ① 小中学校での教育や家庭・地域での教育について
- ② 生涯学習の状況について
- ③ 地域や社会での活動に対する考え方について
- ④ 芸術文化について**
- ⑤ 柏市の教育・生涯学習・芸術文化全般について**
- ⑥ 属性について

<芸術文化分抜粋>

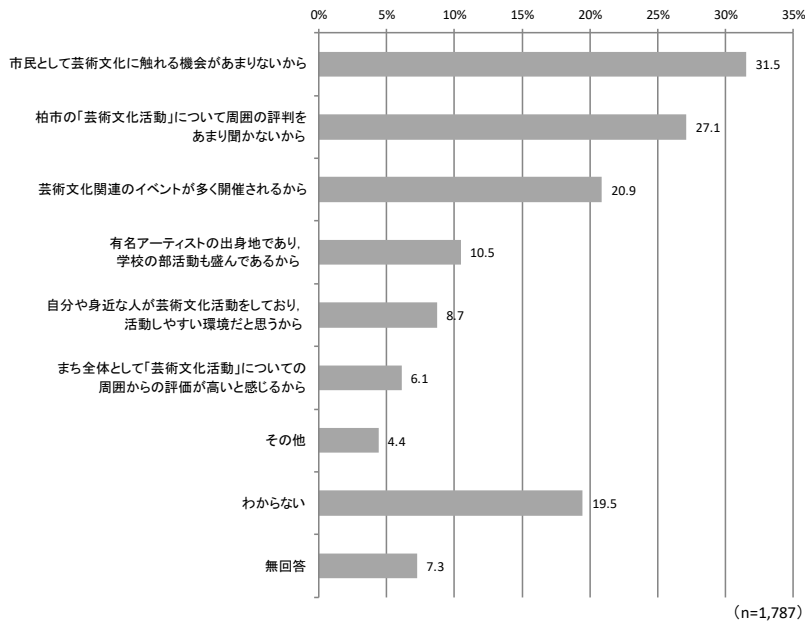
問28-1 柏市は芸術文化活動が盛んだと思いますか。 (1つだけ選択)



思う、やや思うの回答が37.7%。

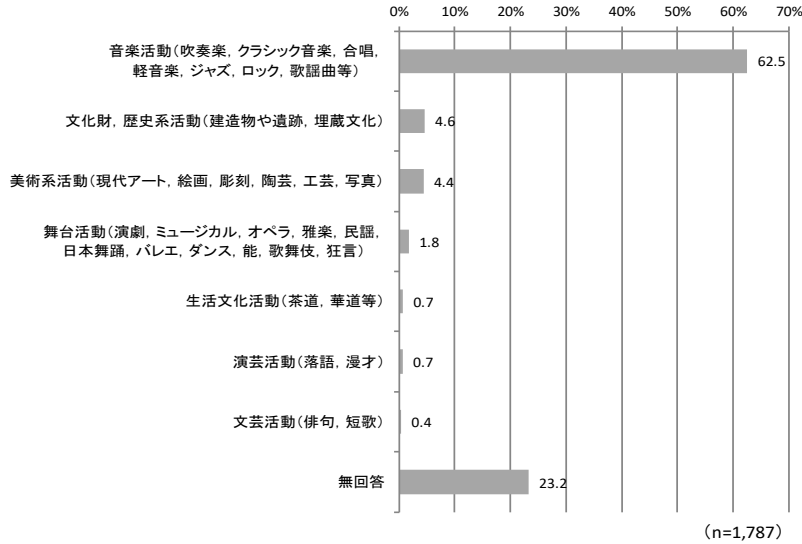
問28-2 柏市の芸術文化活動が「盛んである」又は「盛んでない」と思う理由について教えてください。 (最大3つまで選択)

「市民として芸術文化に触れる機会があまりないから」が31.5%と最も多く、次いで「柏市の「芸術文化活動」について周囲の評判をあまり聞かないから」が27.1%、「芸術文化関連のイベントが多く開催されるから」が20.9%となっている。



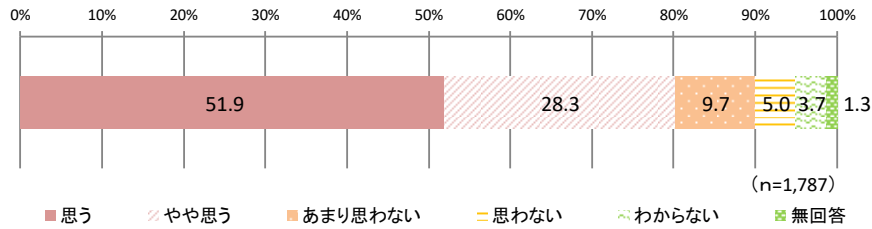
問29 「柏市の芸術文化」について、盛んだと思う活動は何ですか。
(1つだけ選択)

「音楽活動（吹奏楽、クラシック音楽、合唱、軽音楽、ジャズ、ロック、歌謡曲等）」が 62.5% と最も多く、他のジャンルの「文化財、歴史系活動（建造物や遺跡、埋蔵文化）」が 4.6%、「美術系活動（現代アート、絵画、彫刻、陶芸、工芸、写真）」が 4.4%、「舞台活動（演劇、ミュージカル、オペラ、雅楽、民謡、日本舞踊、バレエ、ダンス、能、歌舞伎、狂言）」が 1.8% となっている。



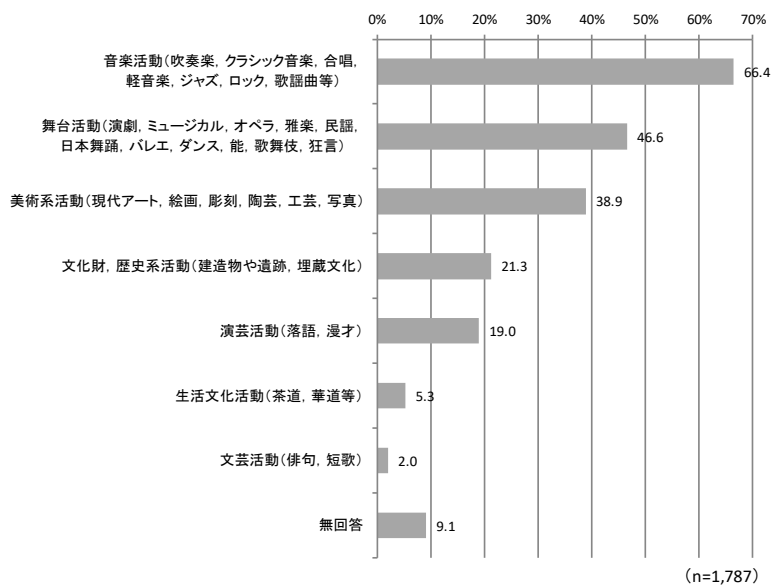
問30-1 芸術文化の鑑賞をしたいと思いませんか。
(1つだけ選択)

「思う」が 51.9% と最も多く、次いで「やや思う」が 28.3%、「あまり思わない」が 9.7%、「思わない」が 5.0% となっている。



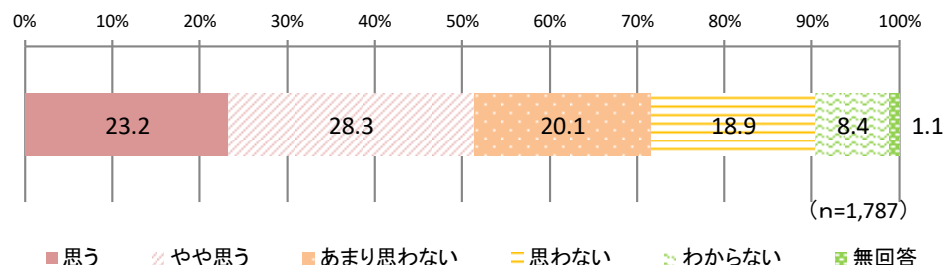
問30-2 今後、どのような分野の芸術文化の鑑賞をしたいと思いますか。
(最大3つまで選択)

「音楽活動（吹奏楽、クラシック音楽、合唱、軽音楽、ジャズ、ロック、歌謡曲等）」が66.4%と最も多く、次いで「舞台活動（演劇、ミュージカル、オペラ、雅楽、民謡、日本舞踊、バレエ、ダンス、能、歌舞伎、狂言）」が46.6%、「美術系活動（現代アート、絵画、彫刻、陶芸、工芸、写真）」が38.9%、「文化財、歴史系活動（建造物や遺跡、埋蔵文化）」が21.3%となっている。



問31-1 芸術文化活動を始めたり、参加したりしたいと思いますか。
(1つだけ選択)

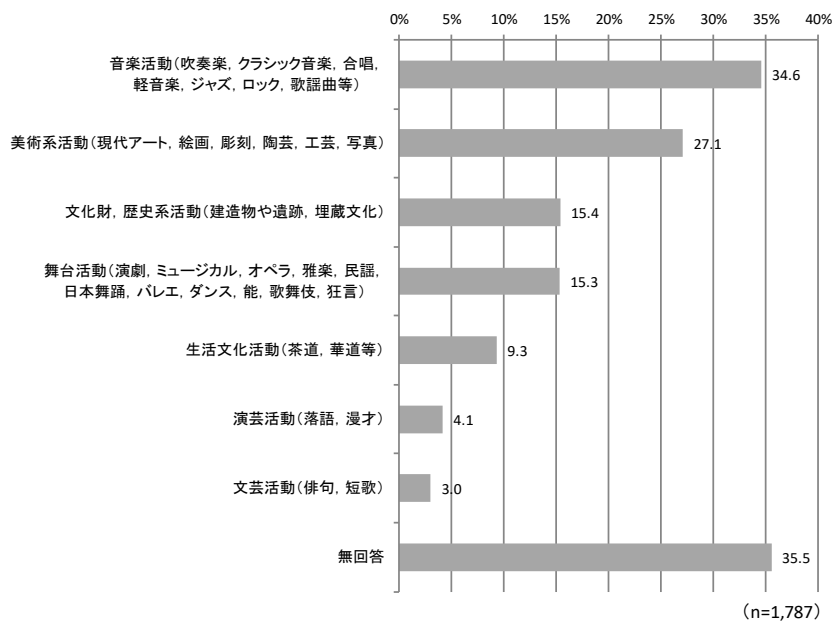
「やや思う」が28.3%と最も多く、次いで「思う」が23.2%、「あまり思わない」が20.1%、「思わない」が18.9%となっている。



問31-2 今後、どのような分野の芸術文化に参加したいと思いますか。
(最大3つまで選択)

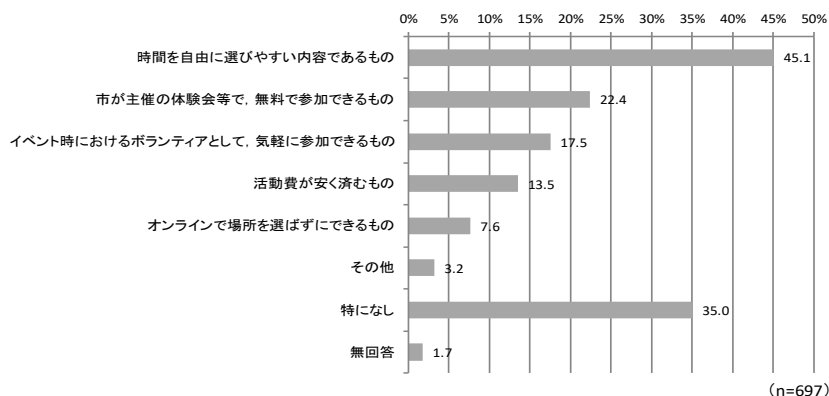
「音楽活動（吹奏楽、クラシック音楽、合唱、軽音楽、ジャズ、ロック、歌謡曲等）」が34.6%と最も多く、次いで「美術系活動（現代アート、絵画、彫刻、陶芸、工芸、写真）」が27.1%、「文化財、歴史系活動（建造物や遺跡、埋蔵文化）」が15.4%、「舞台活動（演劇、ミュージカル、オペラ）」が15.4%となっている。

ラ、雅楽、民謡、日本舞踊、バレエ、ダンス、能、歌舞伎、狂言)」が 15.3%となっている。



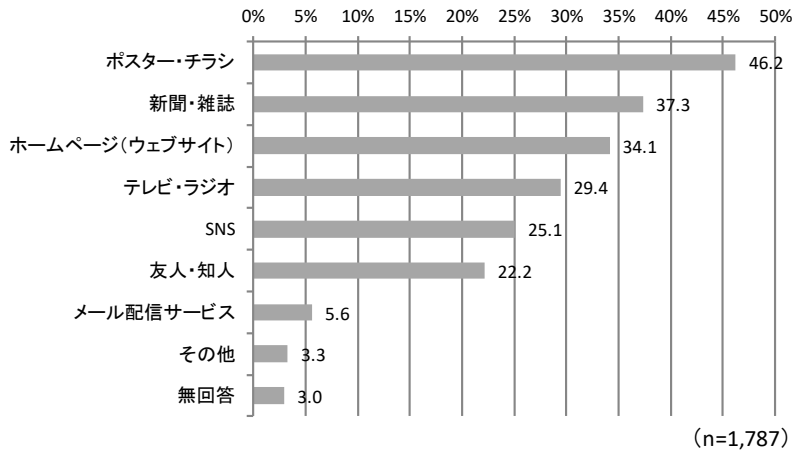
問32 どのような形態であれば、芸術文化活動に関わりたいと思いますか。
(最大3つまで選択)

「時間を自由に選びやすい内容であるもの」が 45.1%と最も多く、次いで「市が主催の体験会等で、無料で参加できるもの」が 22.4%、「イベント時におけるボランティアとして、気軽に参加できるもの」が 17.5%となっている。



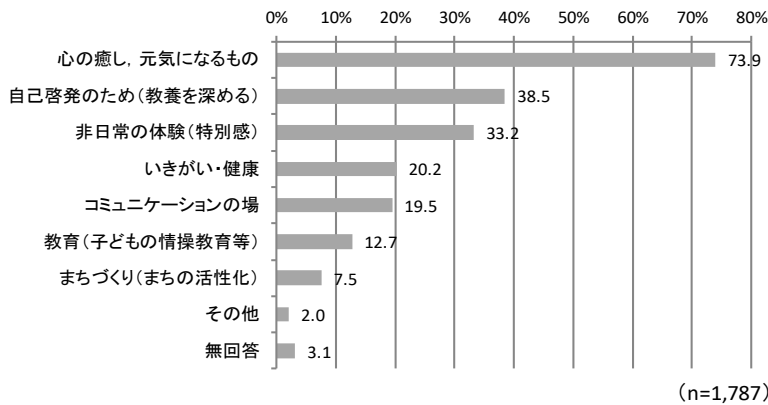
問33 芸術文化関連の情報を、主にどのような方法で得ていますか。
(最大3つまで選択)

「ポスター・チラシ」が 46.2%と最も多く、次いで「新聞・雑誌」が 37.3%、「ホームページ(ウェブサイト)」が 34.1%、「テレビ・ラジオ」が 29.4%となっている。



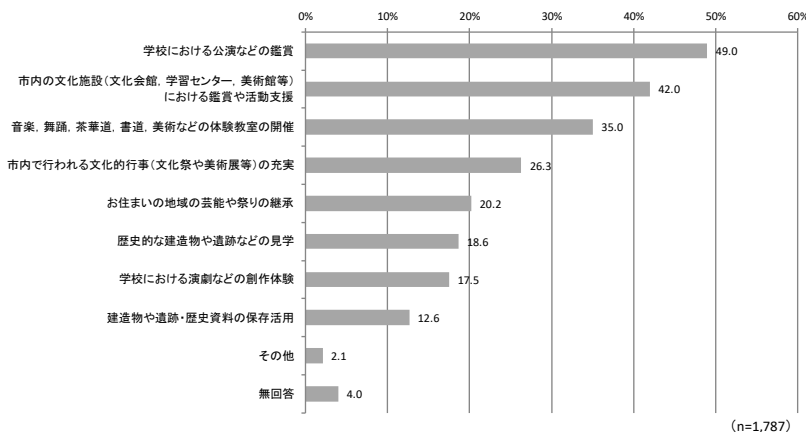
問34 あなたにとって「芸術文化」とはどのようなものですか。
(最大3つまで選択)

「心の癒し、元気になるもの」が73.9%と最も多く、次いで「自己啓発のため(教養を深める)」が38.5%、「非日常の体験(特別感)」が33.2%、「いきがい・健康」が20.2%となっている。



問35 次世代に芸術文化を伝えていくために、市はどのような取組をすることが大切だと思いますか。
(最大3つまで選択)

「学校における公演などの鑑賞」が49.0%と最も多く、次いで「市内の文化施設(文化会館、学習センター、美術館等)における鑑賞や活動支援」が42.0%、「音楽、舞踊、茶華道、書道、美術などの体験教室の開催」が35.0%、「市内で行われる文化的行事(文化祭や美術展等)の充実」が26.3%となっている。



柏市文化振興審議会 審議経過

令和元年度

第1回会議：令和元年6月25日（火）

- ・令和元年度芸術文化事業について
- ・市の文化事業が計画にどのように反映されているかの検証・分析
- ・第五次柏市芸術文化振興計画策定に向けた意見交換

第2回会議：令和元年9月27日（金）

- ・柏市の教育・生涯学習・芸術文化についての市民意識調査アンケートについて
- ・第五次柏市芸術文化振興計画策定に伴う意見交換

第3回会議：令和2年1月23日（木）

- ・第五次総合計画（後期計画）の策定スケジュールについて
- ・柏市の教育・生涯学習・芸術文化についての市民意識調査アンケートの結果について
- ・第五次柏市芸術文化振興計画策定に伴う意見交換

第4回会議：令和2年3月27日（金）

- ・令和元年度芸術文化事業について
- ・令和2年度芸術文化事業について
- ・教育・生涯学習・芸術文化に関するアンケート報告内容からみられる傾向について
- ・第五次柏市芸術文化振興計画策定に伴う意見交換

令和2年度

第1回会議：令和2年8月20日（木）

- ・令和2年度文化課事業報告
- ・「第五次柏市芸術文化振興計画」について

第2回会議：令和2年10月6日（火）

- ・「第五次柏市芸術文化振興計画」について

第3回会議：令和3年1月21日（木）

- ・「第五次柏市芸術文化振興計画」について
- ・令和3年2月1日号広報「かしわ」、Webにて、「第五次柏市芸術文化振興計画」（案）パブリックコメントを募集

第4回会議：令和3年3月29日（月）

- ・「第五次柏市芸術文化振興計画」の答申

柏市文化振興審議会委員名簿

令和3年3月31日 現在

氏名	所属又は役職
飯森豊水	開智国際大学教授
鈴木將勝	柏市文化連盟会長
林久美子	柏市音楽家協会名誉会員
中村眞知子	柏市吟詠剣詩舞協会理事長
亀岡浩美	JOBAN アートラインかしわ事務局長
香島ひで子	新槐樹社柏支部長
駒井仁南子	博物館学芸員 柏プラネタリウム研究会代表
手塚ナツ子	柏少年少女合唱団代表
堀良慶	柏わたくし美術館館長
風澤俊一	JOBAN アートラインかしわディレクター
出浦真緒梨	公募委員

(順不同)

任期：令和元年6月1日～令和3年5月31日

第五次柏市芸術文化振興計画

発行年月日 令和3年 4月 1日

編 集 柏市文化振興審議会
生涯学習部文化課

発 行 柏市教育委員会

〒277-8503 千葉県柏市大島田48番地1

TEL 04-7191-7403

FAX 04-7190-0892

<http://www.city.kashiwa.chiba.jp>